

2024年度 第5回 公立大学法人埼玉県立大学理事会 議事録

日 時 2024年9月24日(火)10:00~11:45

会 場 本部棟大会議室(オンライン併用開催)

出席委員 田中理事長、星副理事長、磯田理事、伊藤理事、岡島理事、戸所理事、佐野監事、中野監事

出席教職員 林副学長兼学部長、田口学長補佐兼専門職連携教育研修センター長、長岡副局長、高柳調整幹兼総務担当部長、篠原企画・情報担当部長、酒井施設管理担当部長、小原教務・入試担当部長

【オンライン】

金村研究科長、延原情報センター長、東高等教育開発センター長、常盤学生支援センター長、滑川保健センター長、濱口研究開発センター長、北畠地域連携センター長、田中共通教育科長、國澤看護学科長、山崎理学療法学科長、久保田作業療法学科長、河村社会福祉子ども学科長、廣渡健康開発学科長、山口高等教育開発センター副センター長、小林研究開発センター副センター長、濱口財務担当部長、今村学生・就職支援担当部長、中野研究・地域連携担当部長

議事概要 ○:学外理事、監事 ●:学内理事、事務局

【議事録確認】

理事長から前回の議事録が提示され、確認された。

【議決事項】

第10号議案 教員の採用について

資料に基づき、星学長から説明した。案のとおり、異議なく議決された。

主な発言は以下のとおり

○応募資格に記載のある実務経験は、どのような場所での経験を想定しているか。

●看護師の場合には病院等、ソーシャルワーカーの場合には社会福祉施設や自治体等での経験を想定している。

○公募とは、現在本学に所属していないのみが応募できるのか、それとも現在本学に所属されている方でも応募ができるのか。

●本学に所属しているしていないに関わらず応募が可能である。

第11号議案 2025年4月1日付け教員昇任の方針について

資料に基づき、星学長から説明した。案のとおり、異議なく議決された。

主な発言は以下のとおり

○議題である教員の内部昇任の場合と外部の人材も含めた公募に内部の教員が応募する場合とがあると思うが、これらにはどういった関係があるのか。空いているポストを内部昇任のポストとして決定していくのか。

●内部昇任は、空いているポストに対して募集するというものではなく、現状の中で昇任者を決定していくものである。そのため、職位比率が変化することとなる。応募者の業績のほか、学科等の状況、職位比率や人件費等などを踏まえ、総合的に昇任者を選考していく。

○内部の教員も公募に応募可能とのことだと、例えば、内部で力のある教員は公募に応募し、それ以外の教員は内部昇任に応募する、という考え方もあると思う。該当科目を担当できる教員が内部にいないのであれば話は別だが、そうした考え方を踏まえて、現状の人材政策的なものがあれば教えてほしい。

●公募については、内部だけではなく外部の人材も含めて、大学のカリキュラムに必要な人材を採用することが原則である。内部昇任については、教育活動、研究活動、社会貢献活動の成果を残すことで昇任ができる、というモチベーションにもなっており、別物であると考えている。

○内部の教員から現在の昇任制度等の改善を求める声はあるか。

●昇任の人数が限られている中で、昇任の機会を増やしてほしいとの声を聞くことはある。

- 選考漏れとなった教員は翌年も応募することが可能なのか。また、選考漏れとなった場合のフィードバックなどはあるのか。さらに、直近の応募者数を教えてほしい。
- 1度選考漏れとなった場合でも翌年以降に再度応募することは可能である。結果については、個々の教員に対してのフィードバックは行っていない。昨年度の応募者数は准教授が12人・助教が3人、一昨年度は准教授が13人・助教が1人である。
- 選考漏れとなった教員に対して、今後どういった能力を身に付ける必要があるのか把握しモチベーションを保つためにも、点数以外の面について具体的なフィードバックをぜひ検討してほしい。

第12号議案 任期付き教員の再任について

資料に基づき、星学長から説明した。案のとおり、異議なく議決された。

主な発言は以下のとおり

- 今回提供されている資料だけを見て意見を言うというのでは理事会の機能をはたしていないと思う。教員の個人名はともかく、どういった審査を経てこの結果になったのか、実務過程を示していかないと承認の可否を判断することは難しいのではないか。
 - 今回再任となる教員は無期転換の権利を得る方が多いと思う。個別の判断は適切に審査が行われていると考えているが、理事会としては、大枠の人事政策などについて考えるためにも例えば年齢構成等を示してほしい。
 - 資料について検討し、別途提示する。
-
- 再任申請対象の教員のうち、2名は申請をしていないようだが理由は何か。
 - 転職や家庭の事情によるものである。
 - 例えば一般的に雇用契約を延長することが望ましくないと思われる者がいた場合、指導等を行うこともあると思うが、再任や無期転換となる教員については何か対応しているのか。また、再任が望ましくない教員など過去に例はあったか。
 - 任期更新の際に基準があるため、その基準をクリアすることが前提となる。無期転換後は、分限処分や懲戒処分を適用し対応していくことになる。数は限られるが、過去に再任しないという判断もあった。

【報告事項】

(1) 法人評価委員会による業務実績評価結果について
資料に基づき、長岡副局長から報告した。

主な発言は以下のとおり

- 評価基準にある「おおむね順調な進捗状況」や「順調な進捗状況」の違いを教えてほしい。他にも、委員会からの指摘に自己評価で「S」や「A」を付けた項目について根拠を示して定量化してほしい、といった意見があった。これは非常に厳しい指摘だと思うが、今後大学としてどのように対応する予定か。
- 基本の評価は「3 おおむね順調な進捗状況」であり、今回、「Ⅲ 財務内容の改善に関する目標」が「4 順調な進捗状況」の判定となったのは課題として指摘される事項がなかったからと聞いている。自己評価の根拠等については、業務実績報告書において記載がわかりにくくなっている点を見直し改善する。
- 個人的な意見になるが、この評価を受けて本学が今後どう対応すればよいのかがわからない。本学はよくやっていると思うが、今後何を改善したら良いのかがこの評価では見えないと感じる。
- 本学の年度計画は、会議の開催件数や講師や委員の派遣件数といったアウトプットを出す計画である。しかしながら、法人評価委員会からは毎年のアウトカムを出すように求められている。大学における教育研究は中長期的な目線でみる必要があり、単年度ですぐに結果が出るものではない。本学としては中長期計画に基づき業績評価指標をもってアウトカムを確認しているところである。そういう点を本学からしっかりと法人評価委員会に伝える必要があると考えている。
- この評価によって県からの運営費交付金が増減することはあるのか。
●評価が「2 進捗がやや遅れている」「1 進捗が著しく遅れており、重大な完全事項がある」となった場合は運営費交付金が減額される。「3 おおむね順調な進捗状況」以上の評価であれば影響はない。

(2) オープンキャンパスの開催結果について
資料に基づき、小原教務・入試担当部長から報告した。

主な発言は以下のとおり

- 実際の授業風景をみてもらのか。
 - オープンキャンパスで行っているのは実際の授業の見学ではなく、本学教員による高校生向けの模擬授業である。
-
- 学生が手伝いに来ていると思うが、単位付与の対象になるのか。
 - 対象にはならないが、例年かなり積極的な協力をいただいている。

(3)埼玉県との「雨水貯留施設の機能強化及び管理に関する協定書」の締結について
資料に基づき、酒井施設管理担当部長から報告した。

主な発言は以下のとおり

- これは県と本学どちらから話を持ち掛けたのか。
 - 県から話をいただいた。
 - 工事費用を県が負担してくれるのであれば本学のメリットは大きい。良い協定だと思う。
-
- 来年10月から維持管理が発生するが、どのくらいの予算が必要になると想定しているのか。
 - 今回の工事は新たな工作物を設置するものではなく元の状態に戻すものであり、新たな維持管理経費は発生しない。目視等の日常管理の範囲内で管理していく。

(4)2024年度埼玉県立大学学生調査(在学生)の結果について
資料に基づき、篠原企画・情報担当部長から報告した。

主な発言は以下のとおり

○「ダイバーシティという言葉を知っていますか」という質問で「知っている」と回答した生徒の割合が増加しているが、これは言葉自体が広く一般的に使用されるようになったため、言葉を知っている割合は増加すると思う。しかし、「本学でダイバーシティが実現されていると思いますか」という設問の「そう思う」の率はあまり変わっていない。本学のダイバーシティの取り組みが、学生に十分に伝わっていないのではないかと思う。

●ダイバーシティは範囲が広い言葉なので判断が難しい点はあるが、本学は女性の学生が9割だったり、現在、外国人学生が1人もいないという点を見ると確かにダイバーシティが実現できていない、という判断はあるかもしれない。

○大学における学生の経験の中で、国際交流は非常に重要と考えているが、「在学期間中に留学をしてみたいと思いますか」の設問について「そう思う」と回答する人が傾向としてずっと減少しており、理由としては費用を感じていることだった。学校として費用面をサポートする仕組みはあるのか。

●1人当たり最大5万円を補助するグローバル活動助成金という制度がある。

○毎年もらえるのか、それとも年に1度か。

●年に1度である。

○本学の学生は実習等で忙しくアルバイトで費用を捻出しにくいと考えると、補助が5万円では中々難しいと感じる。留学経験は卒業後にも活きる経験だと思うので、学生への支援をもう少し検討していただきたい。

以上